

里山の資源を有効に使った遊びや体験プログラムの提案

高根沢町
特定非営利活動法人ふるさと未来Sou
エコ・ハウスたかねざわ

26班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

鳥水梨歩 河村由奈
佐藤慧士 小木将幹
福島夏紀 小林新人

背景

近年、担い手の不足、生活様式、営農形態の変化によって里山が荒廃してしまっており、里山が持つ資源の生産、生物多様性の保全、大気・水質の浄化などの機能が失われてしまっている。

エコ・ハウスたかねざわでは、森林整備などを行い里山の保全に努めている。しかし、整備された里山に人が入らないとまたすぐに荒廃してしまう。現在、里山の利用者は限られているため、利用者の幅を広げる必要がある。

目的

親が子どもたちを外で遊ばせたいような魅力的な里山をつくるためには何が必要なのか、何を求めているのか認識し改善することが必要不可欠であると考えた。今回の調査ではアンケートを行い、その結果をもとに現状の把握をして解決策を考察・提案することを目的とする。

1st Cycleでは小学校児童の親御さんを対象にアンケートを行い、子どもの自然への関心度や自然で遊ばせるうえで不安に思っていることを調査する。

2nd Cycleでは解決した内容とすでに解決されていることをパンフレットにまとめた。

方法

1st cycle

- ・里山の現状についての理解
- ・エコ・ハウスたかねざわでのヒアリング
- ・里山での遊び体験

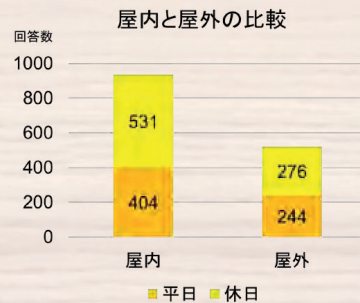
2nd cycle

- ・小学校へのアンケート調査(回収数309)
- ・アンケートの収集・分析

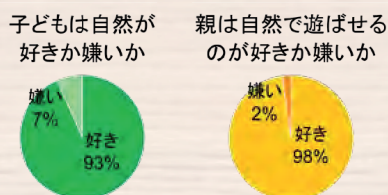
3rd cycle

- ・解決策の提案

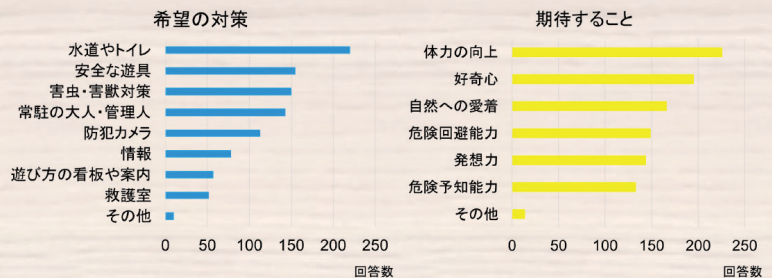
分析結果



平日と休日を合計して、屋内で遊ぶ子どもの数が屋外で遊ぶ子どもの数より約2倍多いことがわかった。その中でも、屋内では「自分の家」で遊ぶ子どもが最も多く、屋外では「自然の中」で遊ぶ子どもが最も少ないという結果になった。



1つ目の調査結果から、自然の中で遊ぶ子どもが最も少ないにもかかわらず、「自然が好き」と回答した子どもの割合が93%もいることがわかった。また、保護者の方々も同様に、自然を肯定的に評価している人の割合が98%と非常に多い結果となった。

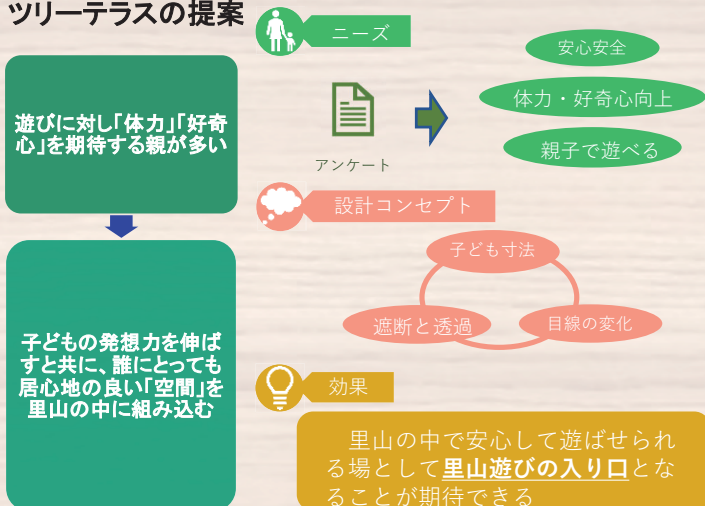


上のグラフは、保護者が自然に求める希望の対策や設備と期待することをまとめたものである。水道やトイレ等の衛生面の向上や、子どもの安全を求める保護者が多いことがわかった。また、体力の向上や好奇心が旺盛になることを望む保護者が多いことがわかった。

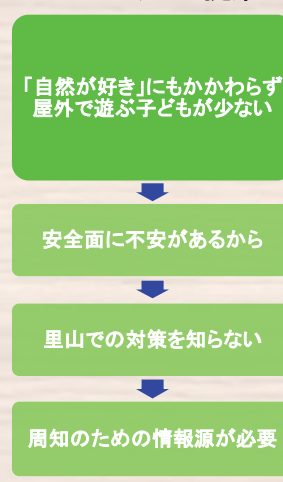
自然が好きなお子さまたちや保護者が安心して自然の中で遊ぶことができ、子どもの好奇心や発想力を刺激する遊びを実現できるような提案を行う。

提案

ツリーテラスの提案



パンフレットの提案



・里山がどういうものなのか、どう使うのかを知ってもらい、里山をもっと近くに感じてもらう。

・子どもの自然遊びを支える大人を育成できるように、里山の活用例を示す。

これらのことを目的とし、里山の活用方法をまとめたパンフレットを作成し、配布する。

効果

里山で遊ぶ子どもや、それを支える保護者が増え、人々の里山への関心が高まる。